

心優しい先輩



菅章哉のインタビュは、開催中の鳴門の宿舎ロビーで行ったが、先輩・林美

憲が「宿舎では静かにお願いしますよ。騒ぐなよ」とチクリ。もちろん冗談で言っているだけだが、静かにインタビューを進めていると、林がカフエオレを3本持って現れた。「良かったら飲んでや〜」。ちゃんとカメラマンの分まで準備してくれる優しい。「林さんは冗談も好きですが、ほんま優しいんですよ」。カッコいいぜ、林さん!

実は96期の出世頭?



96期と言えは、篠崎元志や平本真之、新田雄史ら早くから活躍するSGウイナイ

ーをはじめとしたA1級が多く在籍するが、「実は僕も早かったんですよ」と言うのは奈須啓太。調べてみると、奈須の初1着は約2か月で、篠崎より1か月以上も早く、初優勝も平本や新田よりも早かった。デビュー当時から注目されていた奈須だが、SGに関しては20年かかっ

たですな」と遅咲きで再注目されることになったが、ポテンシャルはSG級!?

お酒の力を借りて



普段は口数が少なく、マジメな印象の森野正弘。「あんまり自分からコミュニケーションを取らないので」と人見知り感を出す。選手紹介などでも「地味目で見立たない」とのことだが、そんな森野に待ったをかけたのは弟子の高岡竜也。「森野さん、普段は物静かなんですけど、お酒を飲んだ時だけめっちゃくちゃ陽気になります(笑)。でもすごくしゃべる森野さんも変わらな

く優しいです」と暴露した。「そんなことないですよ。ただ、お酒を飲むと楽しくなっちゃうので」。そんな森野を見てみたいが、そのギャップがレース場では見られないのが残念。:

夢は親子共演



スピードクイーンメモリアルで2023年の四国地区選手権以来、2年ぶりの

GI優出を決めた岩崎芳美。「うれし〜。最近調子が悪かった

のでめちゃくちゃうれしいです」とニコニコ。優勝戦は5コースからまくり差しを狙ったものの、結果は4着。それでも「大きな舞台で」娘(檉葉新心)と走れたらいいな。まだ娘は水神祭もしてないけどね(笑)と目じりを下げた。夢は大舞台での母娘共演! 新心の成長とともに楽しみにしたい。

驚きのギャップ



「わいわいトク」でUSJに行ったと話していた127期の同期3人組(山下奈緒、小林愛実、谷口佳蓮)。

オーバーオール姿のスーパーマリオファッションで揃え、存分に楽しんだというが、実は山下と谷口はいわゆる絶叫系の乗り物が苦手だとか。1人だけ超ノリノリの小林に引つ張られて、なんだかんだ文句を言いつつも乗ったという。3人の中では一番おとなしそうに見える小林が、実は普段は見せないイケイケな内面を隠し持っているとは。:

師弟ではなく仮入部

デビューしてもうすぐ2年になる伊藤葉だが、残念ながらもまだ初1着の水神祭を挙げることは



できていない。今期(11月)からスローも入り始め、コースの利を得て早く結果

を出したいところ。そんな伊藤が弟子入りを志願しているのが細川裕子だという。「師匠になつてほしいとお願ひしてるんですけど、2回断られて。けど全くダメというわけではなく、条件を出されました。それが勝率3・5を取ること。今はまだ全然手が届く位置ではないんですけど、師匠になつてもらうために頑張ります」。現状全く見てもらえていないわけではなく、仮入部の状態なんだとか。

25場目のマスコット!?



全国24場には公式マスコットキャラクターがいるが、虎視眈々とその座を狙っているかもしれない。それが「へ吉」(へきち)だ。勘のいい方ならピンときただろう。彼は碧南訓練所(水上スポーツセンター)の非公式キャラクターなのだ。「碧南」だから「へ吉」。なんとも安直だが、それも味があつていい。モチーフはラッコで、艦旗が刺さったターンマークの帽子をかぶっている愛らしいデザイン。グッズは施設内のガチャガチャで手に入れることができる

伍バツチ。ひとつ売れることに職員さんが新しいものを作つて補充している。ポートファンなら手に入れたい激レアグッズだ。(97ページをチェック!)

誰よりも愛深きゆえに



師弟の絆について多く取り上げた号となつたが、大須賀友、荒木颯斗、松

田真実は師弟愛を感じるグループだ。愛知支部のリリースコラムでは、弟子(荒木と松田)は師匠を、師匠(大須賀)は弟子のことをいが一番で書いていた。「うちのグループは本当に仲良くやっているといます。ただ厳しくするとき普通に怒つたりもします。そこは信頼関係あつてこそだとは思いますが、弟子愛も負けておりません(笑)」とは師匠・大須賀の言葉。荒木も松田もメキメキと成長している裏には、師匠の愛ある指導があつてこそなのだろう。

Macour Coverage Memo

追配取材メモ